

2022年度労使関係研究協会活動計画

労使関係研究協会の2022年度事業については、労働講座、講演会、研修会など人を集める活動は原則として休止する。広報活動を中心に、資料整理公開、PR活動を行っていく。今年度は事業活動を抜本的に見直し、23年度からの本格的再開にむけ注力していくこととする。

1. 具体的な活動

(1) 労働講座の資料整理とPR活動

労働講座（私の労働運動史を語る）は、原則として休止する。ただし条件が整えば実施することもある。

これまで9年間、28回開催してきた講座はDVDに記録してあるが、その文書化や紹介活動を進める。

(2) 講演会、研究会、研修会の活動を当面休止

講演会、研究会、研修会等人を集める活動は当面休止することとするが、労働運動、労使関係に関する研究活動について、改めて企画することとする。

(3) 関西支局の活動と本部との連携

関西支局の労働講座、講演会、研修会等の活動も休止するが、友愛労働歴史館と連携した特別展示の開催を行う。

(4) 広報活動

- ① ホームページはその都度、更新していく。
- ② 「情報」については年2回、1月と9月に発行する。

(5) その他

- ① 団体会員（労組）の基本調査を実施する。
- ② 大会の祝電、メッセージの送付、並びに各組織の機関紙誌等の収集を行う。

2. 一般財団法人日本労働会館の活動の一翼を担う

- (1) 友愛労働歴史館との連携を密に、活動を進めていく。
- (2) 「友愛会創立を記念する会」の事務局を、友愛労働歴史館と協力して進めていく。
- (3) 友誼団体との連携し、活動を進めていく。現在は連合、教育文化協会、政策研究フォーラム、核兵器廃絶・平和建設国民会議（KAKKIN）、民社協会、アジア連帯委員会（CSA）と連携している。